

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	AU326／哲学概論 2 (Introductory Lectures on Philosophy 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	思想家たちに問いながら学ぶ中国哲学史		
担当者名 (Instructor)	林 文孝(HAYASHI FUMITAKA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	PCW2000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	AE327「人間と哲学 2」と同一科目。重複履修不可。 教育学科の学生は AE327 を登録すること。		

授業の目標(Course Objectives)

この授業の目標は、

- (1) 中国哲学史についての基礎的な知識について説明できること、
 - (2) 重要な理論や概念を理解し、哲学的問題の思考に適用できること、
- である。

the goals of this course are to

- (1) obtain basic knowledge about the history of Chinese philosophy.
- (2) be able to understand important theories and concepts in Chinese philosophy, and apply them to thinking on philosophical issues.

授業の内容(Course Contents)

思想家との仮想問答を特徴とするテキストにもとづいて中国哲学史の概要を説明する。重要な理論については、それを手がかりとしてどのような哲学的思考が展開できるかという可能性についてもあわせて説明する。

This course provides an overview of the history of Chinese philosophy based on a textbook that features virtual questions and answers with thinkers. For important theories, I will also explain the possibility of developing philosophical thinking with them as clues.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 先秦(1): 孔子を中心に
3. 先秦(2): 老子を中心に
4. 先秦(3): 孫子を中心に
5. 秦漢～隋唐(1): 王充を中心に
6. 秦漢～隋唐(2): 王弼を中心に
7. 秦漢～隋唐(3): 韓愈を中心に
8. 宋・元・明(1): 王安石を中心に
9. 宋・元・明(2): 朱熹を中心に
10. 宋・元・明(3): 王陽明を中心に
11. 清・近代(1): 顧炎武を中心に
12. 清・近代(2): 戴震を中心に
13. 清・近代(3): 魯迅を中心に
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習範囲として指示された範囲のテキストを読み、その内容にかかわる課題(Blackboard 上に小テストを設定する)に対応したうえで授業に臨むこと。各回の予習範囲については第1回の資料で提示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%)/予習課題(小テスト)(20%)/リアクションペーパー(20%)

所定期間内のリアクションペーパー提出をもって出席にカウントする。なお、75%以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト(Textbooks)

1. 渡邊義浩・井川義次・和久希編著、2018、『はじめて学ぶ中国思想——思想家たちとの対話』、ミネルヴァ書房
(ISBN:9784623081066)
- 授業時には資料を配付する。

参考文献 (Readings)

1. アンヌ・チャン、2010、『中国思想史』、知泉書館 (ISBN:9784862850850)
 2. 湯浅邦弘編著、2020、『中国思想基本用語集』、ミネルヴァ書房 (ISBN:9784623087365)
- その他は適宜指示する。

その他 (HP 等) (Others (e.g. HP))

文字資料と板書による講義形式。視聴覚教材を補助的に用いる可能性がある。
予習課題(小テスト)は自動採点。リアクションペーパーに対しては次回授業時に全体的なフィードバックを行う。
資料の掲示、予習課題等に Blackboard を用いる。

注意事項 (Notice)